



まほろん

通信

2017
秋
VOL.65 号

Fukushima Cultural Property Centre
Shitakawa since 2007

◆特集◆

「はなわ」じゃないよ
「はにわ」だよ

■シリーズまほろんのヒミツ7■

まほろんは遺跡の上に建っている？之巻

■シリーズ収蔵資料紹介 25■

正直A遺跡の紡錘車

■コラム■

秋の実りと縄文人

「はなわ」 じゃないよ 「はにわ」だよ

企画展「はにわ行進曲」にちなみ、
ふくしまのはにわについて紹介します。

文：阿部 知己（専門学芸員）



馬にのった男の人
会津坂下町経塚1号墳
(会津坂下町教育委員会提供)

こふんじだい
古墳時代とよばれている時代にだけ、作られていました。「古墳」とは、当
時のお墓のことで、上からみると、四角いかたち、円いかたち、さらにはか
ぎ穴のかたちに見えるように、土を高く盛り上げたものです。やがて、
古墳を作ることをやめると同時に、人びとは「はにわ」を作ること
もやめてしまいました。

<なんのために使ったの？>

「はにわ」は、「古墳」とよばれるお墓のまわりに並べるために作ら
れました。そのため、同じ形の「はにわ」を何十個、何百個も作った
りもしていました。福島県では、まだ見つかっていませんが、たくさ
んの「はにわ」を作っていた場所があったはずです。

今回、浜・中・会津の3地方から見ついている「はにわ」たちに、ま
ほろんに集合してもらいました。中には、楽器を弾いている人、馬に乗った王子様？！、そして
「ピコ太郎」？！のようなポーズをした人などが、みなさんにお会いできるのをまっています。

みなさんは、「はにわ」という言葉を
聞いたことはありますか？福島県内の町の
名前でにたような読み方の町がありますよ
ね。

そうそう、中通り地方の南部に、ダリア
の花で知られている「塙町（はなわまち）」
がありますが、この「はなわ」とは関係な
いんですね。

「はにわ」は、漢字で「埴輪」と書きます。

難しい読み方ですが、「はに（埴）」とは、粘土を
意味しています。

<どんな形しているの？>

「はにわ」は、ひも状にした粘土を円い輪にし
て積み重ねて、人、動物、家、さらにさまざまな
道具の形などをつくりあげた、素焼きの焼き物
です。大きさは、形によってさまざまです。小
さいものは高さ約17センチメートルほどのも
のから、大きいものでは高さ2メートルを
超えるものもみつかっています。

<いつごろ作られたの？>

「はにわ」は、今から1500～1700年前、



おすもうさん
泉崎村原山1号墳出土
(福島県立博物館提供)



いのしし
本宮市天王壇古墳出土
(本宮市立歴史民俗資料館提供)



琴を弾く男の人
泉崎村原山1号墳出土
(福島県立博物館提供)

表紙の1※

今年の「まほろん森の塾」の塾生たちは、「ハニワエキシビションサポートクルー」として、企
画展「はにわ行進曲」の準備などにも協力しています。6月から始まった森の塾で、はにわについ
て学習した成果を、展示解説会で発表するほか、古墳時代の衣装や楽器などの作品を、展示会やイ
ベントなどでお披露目する予定です。

まほろんのヒミツ7

まほろんは遺跡の上に建っている？ 之巻

まほろんの下に眠る一里段A遺跡についてご紹介！

文：柿沼梨沙（学芸員）

みなさんは、まほろんの下に「一里段A遺跡^{いちりだん}」という遺跡が眠っていることをご存じでしたか。

実は、一里段A遺跡は、まほろんが建てられるときの工事で偶然見つかりました。発掘調査によって、この場所に人々が住んでいたのは、約2万7,000年前～約2万3,000年前頃の旧石器時代であることがあきらかになっています。旧石器時代は、現在よりも気温が低い氷河時代でした。この氷河時代は、ずっと寒かったわけではなく、寒い時期と比較的暖かい時期を交互に繰り返し、今から約2万年前が最も寒冷化した時期と考えられています。福



一里段A遺跡全景

島県でも、当時の年間の平均気温が現在よりも7～8℃も低く現在の北海道旭川市のような気候で、針葉樹林に覆われていたようです。旧石器時代の人々は、食料となる動物を追いかけて移動しながら生活していました。そのため、住んでいたのはすぐに移動できるテントのような家だったと考えられています。

旧石器時代は移動生活を送っていることから、遺跡から見つかるものは主に狩猟で使われていた石の道具が多く、

住居の跡はほとんど見つかりません。一里段A遺跡でも当時の人々の生活の跡がわずかながら発見されています。遺跡内では、石の道具を作っていたと考えられる場所が確認されているほか、「ナイフ形石器」とよばれる石の道具なども出土しています。また、道具の材料となる石材の一つとしては、白河で採れる「泥岩^{でいがん}」という石が使われています。それ以外で、山形県の最上川流域で多く採れる「頁岩^{けつがん}」と言われる石は、当時の交流を知ることができる貴重な資料となっています。

まほろんに来館された際は、ぜひ常設展示室で一里段A遺跡の出土品をご覧になって、当時の暮らしに思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。



一里段A遺跡出土泥岩製石器^{でいがん}

一里段A遺跡出土頁岩製石器^{けつがん}

コラム 『秋の実りと縄文人』

文：佐藤 啓（専門学芸員）

秋といえば、読書やスポーツあるいは芸術の季節ですが、やっぱり「食欲の秋」という方も多いのではないのでしょうか？

そんな現代人にも負けないくらい、縄文人も秋の実りを食べていたと言われています。森に行けば、クリやドングリ・クルミなど、たくさん森のめぐみを得ることができました。木の実拾いは落ちているものを拾うだけで手にいれることができるため、狩りに比べてケガの心配もなく、子供からお年寄りまで誰でもできる作業だったのです。食卓には、木の実の粉や肉などをこねた団子状の食物が並んでいたようです。縄文時代の遺跡からは、この時使われた石器が見つかります。

これらの食べ物には糖分が多く含まれているため、縄文人には虫歯が多かったことも分かっていました。歯医者さんがいなかった時代、さぞや痛かったでしょうね。

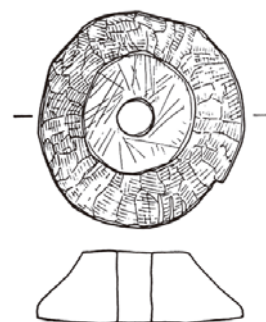


縄文人の食卓

正直A遺跡の 紡 錘 車 について

繊維から糸を紡ぎ出すために使われた道具のお話。

文：平間堯明（学芸員）

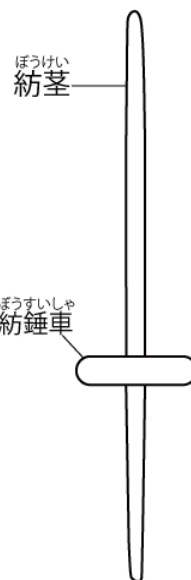


正直A遺跡出土の紡錘車

しょうか。古代では、繊維に撚りをかけて糸をつくるために紡錘が使われていました。紡錘は、紡茎とよばれる軸棒とはずみ車の役割をする紡錘車（紡輪ともいう）の2つの部品からできています。紡茎の端に繊維を引っ掛け、はずみ車である紡錘車を回転させることで、繊維に撚りをかけて糸にしていきます。

遺跡からは、さまざまな素材の紡錘車が見つかりますが、その多くは土や石、鉄でつくられたものです。木製や骨製のものは腐りやすいため、現在まで残ることは稀です。また、紡茎は木製であることが多いため、鉄製の紡茎以外はあまり見つかりません。

福島県でも紡錘は見つかりっていますが、そのほとんどは土や石、鉄でできた紡錘車です。左の紡錘車は郡山市正直A遺跡から出土したものです。正直A遺跡は古墳時代から奈良・



紡錘の各部名称

平安時代にかけての集落の遺跡です。おそらく、当時の人たちはこの紡錘車を使って糸を紡ぎ出していたのでしょう。

紡錘車は、古代の人々が糸を紡いでいたことを今に伝える貴重な資料です。昔は糸を紡ぐために使われていましたが、今は歴史を紡ぎ出すために一役買っています。

まほろん掲示板

9/30 (土) 企画展「はにわ行進曲」
(～11/26)
第3回館長講演会
10/1 (日) 野外展示と植物の見学会



10/8 (日) 文化財講演会「音の考古学」
10/15 (日) 実技講座「鏡づくり」
10/28 (土) 考古学専門研修「はにわの世界」
11/12 (日) ・12/3 (日) ・17 (日) ・24 (日)
実技講座「竹かごづくり①～④」
11/18 (土) ・19 (日) まほろん大感謝祭
12/16 (土) 企画展「双葉高校史学部歩み」
(～3/4)
12/16 (土) 第4回館長講演会
12/17 (日) 文化財講演会
「戊辰戦争期の陣地遺構」

★お気軽にお問い合わせください！

編集後記

今号では、この春にまほろんに加わった若手の学芸員に、「シリーズ収蔵資料紹介」を執筆してもらいました。5万箱を超えるまほろんの収蔵資料には、まだまだ貴重な資料が埋もれていることを実感。ふくしまの歴史を紡ぎ出す資料のさらなる活用を考えていきたいものです。

まほろん
通信
vol. 65

平成29年9月29日発行

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日 (月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日ですが、GW及び夏休み期間中は開館します)
/ 国民の祝日の翌日 (土・日曜日に当たる場合は開館 / 年末年始 (12月28日～1月4日))
入館料 無料 (体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)

お問い合わせ



〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

fax 0248-21-1075

ホームページ

まほろん

検索

